

伝説の生物を活かした地域おこしに関する研究

—ツチノコ等の事例の比較による—

○森芽衣 [東京農業大学] △栗田和弥 [東京農業大学]

キーワード：ツチノコ、カップ、地域おこし、イベント、過疎地

ツチノコとは伝説の生物（未確認生物）で農具である鍬（つち）に似た寸胴のへびに似た生物とされる。北は岩手県から南は九州鹿児島まで全国各地で似ている形態の生き物として目撃情報がある。最古の記述は古事記とされ、縄文土器にも描かれているとの説もある。ところで、ツチノコやカップを始めとする伝説の生物を活かした、ユニークな地域おこしを行っている地域がいくつかあることが知られている。ツチノコ等を活かした夢とロマンにあふれる地域おこしがなされている。そこで本研究では地域おこしの事例収集、変遷を明らかにし、これらの地域おこし活動について文献調査、現地調査、および活動の主催者等の関係者にヒアリング調査を実施し、現状や今後の課題について地域別に比較を行った。その結果、まず、ツチノコとカップではその目撃例や地域おこしへの活用に地域差があることが明らかとなった。また、1990年前後に最もピークを迎えたとされるツチノコを活かした地域おこしでは、現在も継続して行われている地域が散在し、例えば、岐阜県東白川村、奈良県下北山村、新潟県糸魚川市ではツチノコの生け獲りに賞金を懸け、ツチノコ探検などと称してイベントを開催し継続して地域おこしに役立っていることが判った。

江の島における歩く空間の利用に関する研究

○青木慶司 [東京農業大学] △栗田和弥 [東京農業大学]

キーワード：江の島、門前町、歩く空間、階段、坂道、観光客

江の島は神奈川県藤沢市の南部に位置し、片瀬海岸から海の満潮時には独立した島となる陸繋島である。海から小高く聳えて目立つ存在であることから古くから信仰の対象とされており、太平洋が見渡せ片瀬海岸に隣接していることから観光地として人気のある場所である。江の島は「日本三大弁才天」として、竹生島、巖島とならび称されてきた。現在は江の島の主な観光名所として江島神社の他、展望灯台、植物園、温泉施設などがある。他にも湘南地域の地魚が食べられる飲食店やヨットハーバー、老舗旅館などがあり、多様な目的を満たせる門前町を形成している。しかし、以前の信仰目的とは異なり、島の頂上部まで登って行くことが、坂道や階段や複雑な形状の参道により、阻害されていることが考えられる（それを解消するために有料エスカレーターが設置されていると考えられる）。そこで本研究では、どのような傾斜・階段や景観によって阻害されるかの要因を解明する。そのため、まず現地調査により、場所別の観光客数の比率を計測した。次に、歩く空間（参道）の屈曲点や階段等の起終点等の標高（差）等の数値を計測した。さらに参道距離、標高、観光客数、景観等により、観光客の江の島の利用状況の特質を明らかにした。